

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念『忠恕の心』を念頭に誠意と思いやりをもって接している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の辞令交付式では、理事長より必ず理念についての説明を受け、また、定期的な会議で確認し合い、共有するようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>法人全体のたよりを活用したり、運営推進会議等で話したりし、法人の理念『忠恕の心』で、真心と思いやりで接している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地理的に隣近所は難しい。 受診や買い物等の際は、地域の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。野菜の差し入れもたまにあったりする。また、独自ではないが、法人事業の家族介護者教室に協力して行った。 七戸全体にPRする為、こちらから出向いて様々なイベントに参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回行い、事業報告・近況報告・行事のお知らせ等行っている。また、質問を受けたり困っている事等、気軽に話し合えるような、雰囲気作りに努め、サービス向上に活かせるようにしている。</p>	<p>今年度より、運営推進会議が始まったので、今回の外部評価の結果も公表し、率直な意見を頂けるようにしたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行事の際等には、役場の協力を得ながら行っている。(見学場所を借りる・会の祭りの際のテントレンタル等)</p> <p>介護相談員が月一回来訪し、利用者の現状等を聞き取っている。その結果を受け入れ、サービス向上に取り組む努力をしている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要なケースでは、法人内の他事業所管理者と相談して、管理者が対応した為、他職員は理解していないと思われる。</p>	<p>勉強会やミーティング等を通し、青年後見制度に関する理解浸透を深めていきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待が見過ごされていないか、声掛け・態度・対応について、お互いに注意し合っている。</p>	<p>勉強会やミーティング等を通し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透を図ったり、遵守に向けた取り組みを行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>主任クラスも、説明できる体制に取り組んでいきたい。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定化し、できるだけ顔なじみの職員によるケアが行えるような、勤務状態になっている。</p> <p>異動のある時は、早めに準備・申し送り等し、今迄と変わりのないケアが出来るように努めている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の新人研修を行い、それに合わせ新人職員業務到達チェック項目表を活用し評価し合い、事業所内では勉強会を行い、日々向上に努めている。また、外部研修には段階に応じて参加している。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事例研究検討会(研修)を通して、他施設職員と共に意見交換または、ケアの向上に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員親睦会に参加したり、年に数回の面接を行い話し合う。また、第三者経由で悩んでいる事を知った時には、話を聞く等サポート体制をとる。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>総合施設長が独自の自己評価を用いて、全職員に対して面接を行うことにより、取り組まれている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネからの情報収集や入院している場合には、本人に直接会って希望・状態を聞く等事前面談し、状態把握に努めている。その際、家族等関係者の思い・希望を受け、安心して入居できるよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、現状や本人・家族の思いを受け止め、柔軟な対応を行っている。場合によっては、必要なサービスにつなげる橋渡しをしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学に来て頂いたり、馴染みの品の持ち込みの受け入れをしている。 生活歴チェックシートを活用し、趣味や得意な物を引き出す。モニタリング・ケアプランを通してその人らしい生活が送れるよう努めている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付け・調理方法等、教わりながら会話をはずませている。 利用者に合わせた会話方法が、自然に出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>25 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の生活歴、また家族の苦労等の理解に努め、一緒に支える関係を築く努力をしている。</p>		
<p>26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で一緒に過ごして頂いたり、行事等に家族をお誘いしながら、関係の継続に努めている。</p>		
<p>27 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>生活歴から昔やってきた物、昔からの友人、行きつけの店、馴染みの場所等の関係が途切れないように努めている。</p>		
<p>28 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>クラブ等を通し職員が間に入り、互いに関わりを持つと共に、利用者の情報を共有して統一の対応に努めている。</p>		
<p>29 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>長期入院等でサービス利用を終了した方へも、その後の様子伺いを時々行い、つきあいを大切にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活チェックシートを活用しながら、思いや意向を引き出している。本人との意思疎通が困難な場合は、家族・関係者から情報を得ながら検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、本人・家族・関係者から聞いたり、アセスメント表より学歴・仕事・趣味等を理解し、会話等に活かしている。</p>	<p>利用者の詳しい生活歴を、利用開始時の早い段階で把握し、サービス計画やコミュニケーションを図る有効な手段へ活かせるようにしたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活スタイル・何気ない行動や言動に注意して見る事により、心身の状態を把握するよう努めている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今本人に必要な事、何を援助すべきか本人・家族と話し合い、作成している。 アセスメントを含め、職員間でモニタリングを行ったり、ケース会議にて意見を出し合ったりしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>六ヶ月ごとの見直しを基本とし、その間に変更が必要と思われたニーズについては、モニタリングやその状況に応じ、本人・家族・関係者と話し合ったりした上で、新たに作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々の記録を行い、本人の行動・言動等を把握し、職員間で共有するように努め、ケアプランに活かせるようにしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の状況に応じ、通院付き添いや送迎・買い物やお出かけ等も含め、柔軟に対応できるように努めている。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者・地域との様々な接点を見出し、ボランティア等協力を依頼したり、防災訓練を実施したりしている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要な際には事業所と連絡を取り合い、利用者にとって最善な方向づけが出来るように努めている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議で問題提起して頂き、検討してもらっている。</p>		<p>運営推進会議に参加して頂く事で、関係が強化されると共に、周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いていけるようにしたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を入居後もなるべく変更していない。さらに、嘱託医による週一回の回診にて、異常を早期発見・早期対応できるよう連携に努めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	残念ながら、専門医は地域にはいないが、協力医療機関の助言をもらったり、他市の精神科へ定期的に通院して支援している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している施設の看護師の協力を得ている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	これまでの経過・ADL(日常生活動作)・既往歴・服薬状況等の情報提供を行ったり、様子伺いと共に状態確認するようにし、退院に向けた準備・方向づけに努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医・家族・居宅ケアマネや施設関係者等の連絡を取り合い、早い段階から方向づけについて検討している。それらを、申し送りや会議等の場で共有するようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	隣接している施設の看護師からの助言や、かかりつけ医・嘱託医との連携を通し、今後の変化に備えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>サマリーや担当者への情報提供(電話等)を行い、利用者が混乱なく過ごせるようにしている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の耳が遠い為、ついつい大きな声になりがちであるが、自分に置き換え気分を損ねないような対応に努めている。</p>		<p>目立たないさりげない声掛けや対応に努めたい。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選択できるものは本人のわかる力に合わせ、こちらからいくつかの選択肢を用意する等し、納得してもらえるよう努めている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の状態や思いに配慮し、買い物・散歩・ドライブ・外食等柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみが自分で不十分な方、本人の望む店等がある場合は、行けるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食分量・好みに合わせ提供している。 利用者の希望で料理の下ごしらえ・茶碗拭き等を、 手伝って頂いている。 昼食時は、職員も(持参の弁当で)一緒に食事を摂っ ている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	現在、酒・たばこを好む方はいないが、行事ではアル コールを出したりしている。 利用者個々の病気・嗜好物を把握し、本人の様子や 時間をみながら、できる限り本人の要望に応じられ るようにしている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活かして、排泄リズムをつかめるよ うにし、排便の確認と失禁の軽減に努めている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望・体調・タイミングによ り変更も生じるが、臨機応変に対応するようにしてい る。入浴日以外は足浴している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えると共 に、体調・表情から察し休息できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や知識を活かし、得意分野で力を発揮 してもらえるよう、個々に合わせた作業をして頂いて いる。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理したい利用者は、お小遣いとして所持してもらっているが、家族・職員・本人の間で相談・報告し合い、トラブルがないように努めている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分・状況に応じ、散歩・ドライブ・お出かけ・ショッピング等実施し、気分転換や心身の活性化につながるよう努めている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば、職員間で話し合い実現できるよう努めている。また、職員から情報を利用者に提供し、外出へ向けて支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員も家族と連絡をとりながら、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはお茶を出したりして、気軽に来て頂けるような雰囲気作り・対応を心掛けている。 面会時間は21時迄としているが、仕事帰りや都合の良い時間帯にいつでも来訪して頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やらない事が基本であるので、改めて詳しく話し合っていない。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、職員の共有認識を図り、身体拘束をしない事として確認し合う努力をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で玄関前へ出れる利用者には声を掛けてもらったり、外に出たそうなのに気付いた時は、さりげない声掛けや一緒に出たりと安全にも注意していくようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	在所確認表を活用しながら、朝・昼・晩の所在や様子を確認できるようにしている。 (夜間は、一時間ごとに見回りを行っている)		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の管理能力を見極め、本人・家族からの理解を得たうえ、職員で預らせてもらったり、本人に任せたりする等工夫をしている。 包丁・洗剤は、夜間は鍵のかかる場所に保管している。また、他の洗剤等も鍵のかかる場所で保管している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故発生・再発防止対策委員会での話し合いや、その結果をもとに、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。 日々のヒヤリハットの記録・申し送りにてリスクの把握に努め、職員間の共有認識を図っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当・初期対応についての勉強会が年一回設けられて(実技を含む)、覚えるようにしている。 消防署における講習会にも参加して、対応できるように努めている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者のもと、二ヶ月に一回避難訓練を実施している。 避難経路の確認・消火器の使用方法を、全職員が理解できるよう勉強会を開催している。 年一回、近隣住民も参加し、法人全体の訓練も行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由な行動をする事により、リスクは高くなるが、ヒヤリハットや事故報告については、家族に納得して頂けるよう、電話や手紙で報告し、今の利用者の状況をわかってもらえるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行い、異変の早期発見に努めている。少しの変化(食欲・顔色・身体の異変等)でも気付いた時は、バイタルチェックし記録・申し送り等にて情報を共有し合っている。また、必要時には、主治医と連絡を取り合い、早期対応を図っている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに閉じ、いつでも目を通し確認したり、薬辞典で調べる等して把握に努めている。服薬時は、口に含ませたり、手に渡したりして、服用の確認をしている。		全利用者の薬の作用・副作用・病気についての理解を深めていく。
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多めにしたり、繊維の多い物を提供していると共に、運動を促し、軽体操は毎日行っている。下剤は、個々の状態に合わせて使用量を決め、できるだけ薬に頼らないようにしている。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者の能力に応じ、介助している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、水分量を把握できるようにしている。元々食事摂取量が少ない利用者や、体重増加傾向の利用者には、量を少なめに提供する等工夫している。また、体重チェック表も活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し勉強会を開催して、予防・対策について、学習に努めている。 排泄物・吐物処理は、必ず手袋を使用する。 職員・利用者共に、手洗いも徹底している。 エプロンを、調理用と掃除用に分けて使用している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきん等は、毎晩ハイター消毒し、台所周りの清潔にも努めている。 冷蔵庫の食材の鮮度・賞味期限のチェックを行い、買い物は一日おきとし、買いだめをしないようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、季節毎のささやかな装飾をしたり、外には花や野菜のプランター・植木を置く等し、演出に努めている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、昔懐かしい音楽を流したり、飾り付けは利用者の意見を取り入れるようにしている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、外の景色が見える所に椅子を置き、こあがりにはコタツを置き、食事以外は好きな所で過ごしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・家族等と相談し、意向を確認しながら、使い慣れた馴染みの物を傍に置く等し、その人らしく居心地良い居室作りに努めている。</p>		<p>できれば、少しでも馴染みの物を持ち込み、居心地良く生活して頂ければ良いと思う。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>随時、喚起を行う。また、消臭剤も活用し、消臭対策にも努めている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行に少々困難がある方には、回転椅子を使用して頂き、方向転換がスムーズにできるように配慮している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>軽作業は利用者の程度に合わせ提供している。居室の場所も目印になる物、その人の覚えやすい位置で理解してもらい、状態が変わる都度話し合っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>プレイルームを利用し、北・南町利用者で、風船バレー等を楽しんだり、誕生会・行事を行う等、活かせるようにしている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、理念の『忠恕の心』を念頭に、誠意と思いやりをもって接し、おひとりお一人のその人らしさの実現に向けて支援しています。また、建物は緑に囲まれている為、夏場は鳥のさえずり・蝉の鳴き声を聞きながら、木々で四季を体感しています。